

ウズベク語における *yot*-「横たわる」を用いた補助動詞構造

Differences in Auxiliary Verb Structures with *yot*- 'lie' in Uzbek

日高 晋介
HIDAKA Shinsuke

Auxiliary verb structures with *yot*- 'lie' in Uzbek (Turkic language, southeastern branch) have two variations: *V-a/-y yot*- [V(erb stem)-CVB.CNT lie-] and *V-(i)b yot*- [V-CVB.SEQ lie-]. Previous studies have pointed out that both structures express the imperfective aspect and have different morphology and erosion features. However, previous research has not explained why differences between the two structures occur. This study aimed to uniformly explain differences between *V-a/-y yot*- and *V-(i)b yot*- by comparing them based on four parameters of grammaticalization (a. extension, b. desemanticization (or “semantic bleaching”), c. decategorialization, d. erosion (“phonetic reduction”)), using examples quoted from the corpus. The study clarified that the degree of grammaticalization in *V-a/-y yot*- is higher than the one in *V-(i)b yot*-. The reason for these phenomena is that auxiliary verb structures with continuative converb *V-a/-y* may undergo erosion or become to a suffix, while auxiliary verb structures with sequential converb *V-(i)b* always separate from the subsequent words. Finally, the paper makes recommendations for future research based on diachronical and contrastive viewpoints.

キーワード： チュルク諸語、ウズベク語、補助動詞、文法化

Keywords: Turkic languages, Uzbek, Auxiliary verb, Grammaticalization

1. はじめに

ウズベク語 (チュルク諸語南東語群) の *yot*-「横たわる」を用いた補助動詞構造には、*V-a/-y yot*- [V(erb stem)-CVB.CNT lie-] と *V-(i)b yot*- [V-CVB.SEQ lie-] の二種類が存在する。Ibrahim (1995) では、両者とも未完了アスペクトを表すが、それぞれ形態的な特徴と縮約に違いがあると記述されている。ただし、なぜそのような差異がなぜ生じるのかという点については説明がない。本稿は、コーパスから得られた用例をもとに、文法化という観点から両者を比較することで、*V-a/-y yot*- と *V-(i)b yot*- の差異を統一的に説明することを目的とする。本稿での調査と考察から、文法化の度合いで言えば、*V-a/-y yot*- のほうが高く、*V-(i)b yot*-

のほうが低いことを明らかにした。このような違いが起こる原因として、継続副動詞 *V-a/-y* を含む補助動詞構造には縮約・接辞化が起こることがあるが継起副動詞 *V-(i)b* を含む補助動詞構造には起こらないこと、さらに継起副動詞 *V-(i)b* が常に後続要素と音的に切り離されて用いられることを挙げる。

本稿の構成は次のとおりである。2 節で先行研究を概観し、問題提起を行う。3 節にてコーパス調査を行い、4 節にて *V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* を文法化のパラメーターにしたがって比較し、結論を述べる。最後に、5 節にて今後の課題を述べる。

なお、例文番号・グロス・日本語訳・太字などの文字飾りは筆者による。ウズベク語の表記は、先行研究の表記方法に拠らずラテン文字表記に統一する。

2. 先行研究と問題提起

2.1 節では、本論文で取り扱う補助動詞構造について述べる前段階として、ウズベク語の補助動詞構造の構成要素である、副動詞と本動詞 *yot-* それぞれについて述べる。2.2 節では、本稿で扱う二つの補助動詞構造について先行研究の記述を概観する。2.3 節では、文法化の定義と 4 つのパラメーターについて概観したのちに、問題提起を行う。

2.1. ウズベク語の副動詞と *yot-* の語彙の意味

本節では、本論文で取り扱う *V-a/-y yot-* [*V-CVB.CNT lie-*] と *V-(i)b yot-* [*V-CVB.SEQ lie-*] の構成要素である副動詞と本動詞 *yot-* について、それぞれ述べる。

表 1 にウズベク語で用いられる副動詞を挙げる。本稿では、副動詞の 3 つの用法に注目する。一つは副詞節述語¹として用いられるか、二つ目は反復されて副詞として用いられるか、三つ目は補助動詞構造の前項を成すか、という点に注目して用法を整理する。

¹ Haspelmath (1995: 3) は、副動詞を a nonfinite verb form whose main function is to mark adverbial subordination と定義している。ただし、(4) の副動詞による節連鎖が副詞的であるかどうかについては議論を要する。Haspelmath (1995: 7-8) は、チュルク諸語北西語群に属するクムク語にて副動詞が節連鎖 (clause-chaining) に用いられている例を挙げ、この例中の副動詞は真に副詞的ではないとしたうえで、そもそも時間的な副詞的従属と節連鎖を明確に区別することは簡単ではない、と述べている。本稿では、Haspelmath (1995) による議論を踏まえたうえで、節連鎖的な用法を副詞的用法の中にも含める。

表 1: ウズベク語の副動詞

			対応する 否定形式	用法		
				副詞節述語	反復	補助動詞の前項
継続	<i>V-a/-y</i>	「Vして」	<i>V-may,</i>	×	○	○
継起 I	<i>V-(i)b</i>	「Vして」	<i>V-masdan</i>	○	○	○
否定	<i>V-may</i> <i>V-masdan</i>	「Vせずに」	X	○	○	○
継起 II	<i>V-gach</i>	「Vして」	<i>V-ma-gach</i>	○	×	×
目的	<i>V-gani,</i> <i>V-gali</i>	「Vしに」 「Vするために」	<i>V-ma-gani,</i> <i>V-ma-gali</i>	○	×	×
終点	<i>V-guncha</i>	「Vするまで」	<i>V-ma-guncha</i>	○	×	×

本節では、継続副動詞 *V-a/-y* と継起副動詞 I の *V-(i)b* が補助動詞構造の前項として用いられる以外の場合について述べる。

継続副動詞 *V-a/-y* は、副詞節述語として機能することは非常にまれであり、反復されて副詞句として用いられる。(1) の *yur-a* は反復されることで長時間の歩行を表している。

- (1) ... *yur-a* *yur-a* *bedana-ni yana top-ib* *ol-ib=di.*
 walk-CVB.CNT walk-CVB.CNT quail-ACC again find-CVB.SEQ take-INDF=3
 「歩いて歩いて、再びウズラを見つけたそうだ。」(Kononov 1960: 240)

一方、継起副動詞 I の *V-(i)b* は、副詞節述語としても反復して副詞句としても機能する。(2) の *ishla-b* 「働いて」と *qo'y-ib* 「置いて」は副詞節述語として機能し、次の動詞によって表される動作の前に行われる動作を表している。

- (2) *Ular yana yarim soat ishla-b, ketman-lar-i-ni*
 they again half time work-CVB.SEQ hoe-PL-3.POSS-ACC
yelka-ga qo'y-ib, paxtazor-dan qayt-ish-di.
 shoulder-DAT put-CVB.SEQ cotton.farm-ABL return-RECP-PAST
 「彼らはもう半時間働いて、自分の鋤を肩に担いで、綿花農場から帰った。」
 (Kononov 1960: 241)

(3) の *kul-ib* は、反復されることである程度の時間笑うことを表している。

- (3) *Oktam kul-ib kul-ib qara-di.*
 PN laugh-CVB.SEQ laugh-CVB.SEQ look-PAST
 「オクタムは笑いながら見た。」 (Kononov 1960: 242)

次に、本動詞 *yot*-が持つ意味について述べる。*yot*-は、「横たわる」の他に、「場所を占める、位置する」「保つ」「泊まる」「病床に臥す」「拘留される」「閉じ込められる」「止まる」「そのままにする」の意味も表す (Begmatov et al. 2006: 50-51)。(4) の *yot*- は「横たわる」の意で用いられており、(5) の *yot*- は「場所を占めている」、つまり「横向きになってその場に存在する」の意で用いられている。なお、(5) の *yot-ib=di* の *-ib* については脚注 4 にて説明する。

- (4) *Yo'lchi quruq namat-ga yot-ib, ust-i-ga ko'rpacha yop-di.*
 PN dry felt.rug-DAT lie-CVB.SEQ upper-3.POSS-DAT quilt cover-PAST
 「ヨルチは、乾いたフェルトマットに横たわり、上に布団をかけた。」
 (Begmatov et al. 2006: 50)

- (5) *Kitob stul ust-i-da yot-ib=di.*
 book chair upper-3.POSS-LOC lie-PRS=3
 「本が椅子の上に（横向きになって）ある。」 (Begmatov et al. 2006: 50)

2.2. 補助動詞

本節では、Ibrahim (1995) による *V-a/y yot-* [V-CVB.CNT lie-] と *V-(i)b yot-* [V-CVB.SEQ lie-] の記述を概観する。Ibrahim (1995) は、ウズベク語と現代ウイグル語の補助動詞を総合的に記述している博士論文である。Ibrahim (1995: 139) は、*yot*- は「横たわる、横になる」という語彙的な意味を持つが、副動詞とともに用いられる場合はその語彙的な意味を失うかより一般的で抽象的な意味になり、より大きい統語構造においていかなる語も支配しない、と指摘している。「一般的で抽象的な意味」について、Ibrahim (1995: 139) にはこれ以上説明がないが、これ以降の Ibrahim (1995: 139-141) の記述から、「横たわる、横になる」という動作的な意味が薄れて「存在する、とどまる」というような意味も表すようになり、さらにアスペクト的な意味を表すようになったことを指していると思われる²。

² ただし、*yot*- の通時的な意味の拡張・発展については別途検証する必要がある。

*V-a/-y yot-*について、Ibrahim (1995: 140) はいかなる参照時にも用いられる進行動作のマーカーであると述べ、次の例を挙げている。(6) は発話時よりも前に起きた事象であり、その事象中に *dars bo'l-a=yot-gan* 「授業が行われている」という事象が進行中であったことを表している³。

- (6) *Men dars bo'l-a=yot-gan xona-ga tez-roq kir-ish-ga*
 1SG lesson be-CVB.CNT=lie-PTCP.PRF room-DAT fast-COMP enter-VN-DAT
toqatsizlik bilan intil-ar=di-m
 impatience with seek-PTCP.FUT=PAST-1SG

「私は、授業が行われている部屋に、我慢できずに早く入ろうとしていた。」

(Ibrahim 1995: 140)

(7) は発話時時点で進行中である事象を表している。なお、現在継続時制 *-(a)yap* は、(7) に挙げた *-a=yot-ib* が縮約したものである (Ibrahim 1995: 141)。

- (7) *Hozir u o'z qilmish-dan ancha pushaymon*
 now 3SG own misbehavior-ABL very regret
bo'l-a=yot-ib=di.

be-CVB.CNT=lie-PRS=3

「今、彼は自身の良くない行いを大変悔いている。」 (Ibrahim 1995: 140)

Ibrahim (1995: 150) は *V-a/-y yot-* となじまない形態についても述べている。*V-a/-y yot-* は過去形 (8) および命令形 (9) では用いられないという。

³ ウズベク語の参照文法書 (Kononov 1960: 238, Bodrogligeti 2003: 623-624, Abdurahmonov et al. 1975: 513) では、*-(a)yotgan* (< *-a/-y yot-gan*) は形動詞によるパラダイムを成す一つの接尾辞とみなされており、主節時現在を表すとされている。本稿では *-(a)yotgan* も文法化のパラメーターによる分析対象とし、(6) のように *-(a)=yot-gan* と分析的に解釈して論を進める。

- (8) **Ustoz-ingiz-ni yod-ga ol-ib she'r-lar-i-ni el*
 master-2PL.POSS-ACC memory-DAT take-CVB.SEQ poem-PL-3.POSS-ACC people
ora-si-da ayt-a yot-di-o.
 between-3.POSS-LOC say-CVB.CNT lie-PAST-3
 「あなたの先生を思い出して、詩を人々の間で詠んでいた。」 (Ibrahim 1995: 150)

- (9) **Ustoz-ingiz-ni yod-ga ol-ib she'r-lar-i-ni el*
 master-2PL.POSS-ACC memory-DAT take-CVB.SEQ poem-PL-3.POSS-ACC people
ora-si-da ayt-a yot-ing.
 between-3.POSS-LOC say-CVB.CNT lie-IMP.2PL
 「あなたの先生を思い出して、詩を人々の間で詠んでいてください。」
 (Ibrahim 1995: 151)

次に、*V-(i)b yot-* について述べる。Ibrahim (1995: 141) は動作の継続性 (10) あるいは継続的な状態 (11) を表すと述べている。動作の継続性を表す場合は、(10) のように *-(i)b [PRS]*⁴ とともに用いられることがほとんどであるとも述べている。

- (10) *Daryo-dan suv chiqar-ish-ga urin-ib yot-ib=di.*
 river-ABL water put.out-VN-DAT try-CVB.SEQ lie-PRS=3
 「(彼らは) 川から水を出そうとしている。」 (Ibrahim 1995: 141)

- (11) *Mo'ysafid-ning bu gap-i bola-lar-ning ta'na-si-dan ham*
 old.man-GEN this talk-3.POSS child-PL-GEN blame-3.POSS-ABL also
qattiq-roq teg-di, uzoq yil-lar dil-im-da cho'k-ib yot-di.
 hard-COMP touch-PAST distant year-PL heart-1SG.POSS-LOC sink-CVB.SEQ lie-PAST
 「長老のこの話は、子供の中傷よりもひどく (心に) 触れ、長年私の心に沈んでいた。」
 (Ibrahim 1995: 141)

以上、Ibrahim (1995) による *V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* についての記述を概観した。表 2

⁴ 定動詞 *-(i)b* は証拠性を表すが (Johanson 2003: 279, 2018: 515)、*tur-*「立つ」、*o'tir-*「座る」、*yur-*「歩く」、*yot-*「横たわる」と用いられる場合は、証拠性の読みがブロックされ、未完了過去を表す (Straughn 2011: 62)。例えば、*tur-ib=di* は「発話時に彼または彼女が立つという動作を終えて立っている状態にあること」を表す。

にそれらの記述をまとめる。

表 2: Ibrahim (1995) による記述まとめ

	-yot の語彙的意味	意味	形態的特徴	その他
<i>V-a/-y yot-</i>	消失か一般的で抽象的な意味へ	動作の進行 ただし、-yap は現在継続	過去形・命令形 ×	縮約の例あり ex. 現在継続 -(a)yap < -a/-y yot-ib
<i>V-(i)b yot-</i>		動作・状態 の継続	-(i)b [PRS] が付く ことがほとんど	特になし

2.3. 問題提起

前節では、Ibrahim (1995) による記述を概観し、表 2 に *V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* の特徴をまとめた。Ibrahim (1995) では、両者とも類似した文法的な意味 (未完了アスペクト) を表すが、形態的な特徴と縮約に関してそれぞれに違いがあると記述されている。ただし、両者の差異がなぜ生じるのかという問題について特に説明はない。本稿は、コーパスから得られた用例をもとに、文法化という観点から両者を比較することで、*V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* の差異を統一的に説明することを目的とする。

文法化の定義と、文法化の 4 つのパラメーターを概観する。Heine and Kuteva (2007: 32) によれば、文法化は下記のように定義される。

Grammaticalization is defined as the development from lexical to grammatical forms, and from grammatical to even more grammatical forms.

(Heine and Kuteva 2007: 32)

この定義によれば、文法化とは、語彙的な形式から文法的な形式へ、または文法的な形式がより文法的な形式へ発展することを指している。Heine and Kuteva (2007: 34) では、文法化の 4 つのパラメーターが設定されている。

(12) Parameters of grammaticalization

- a. extension, i.e. the rise of new grammatical meanings when linguistic expressions are extended to new contexts (context-induced reinterpretation)
- b. desemanticization (or “semantic bleaching”), i.e. loss (or generalization) in meaning content
- c. decategorialization, i.e. loss in morphosyntactic properties characteristic of lexical or other less grammaticalized forms
- d. erosion (“phonetic reduction”), i.e. loss in phonetic substance

a. extension「拡張」とは、言語表現が新たな文脈で用いられる際に新たな文法的意味が生じること（文脈に誘発された再解釈）を指す。b. desemanticization (or “semantic bleaching”)「脱意味化（あるいは「意味の漂白」）」とは、意味内容が消失するあるいは一般化されることを指す。c. decategorialization「脱範疇化」とは、もとの語彙的なあるいは文法化の程度の低い形式が持つ形態統語的な特徴を失うことを指す。d. erosion (“phonetic reduction”)「音形縮約」とは、音声的な実態が失われることを指す。

3 節にてコーパスから *V-a/-y yot*- と *V-(i)b yot*- の用例を収集し、それぞれの特徴を整理し、4 節にて (12) に挙げた文法化の 4 つのパラメーターを用いて両形式の文法化の程度を比較する。

3. コーパス調査

本節冒頭でコーパス調査の概要を述べ、*V-a/-y yot*- と *V-(i)b yot*- についてそれぞれ調査結果を述べる。

本稿で用いるコーパスは、ニュースサイト Ozodlik radiosi (<http://www.ozodlik.org>) からの記事 (2014 年 1 月から 8 月、2015 年 7 月から 11 月、2016 年 3 月から 4 月に web に掲載された 87 本の記事) と、*Besh qiz va bir yigit* 『5 人の女の子と 1 人の若者』という小説と、短編集 Laude-Cirtautas (1980) *Chrestomathy of Modern Literary Uzbek*. から成る。本節に挙げた用例末尾に、当該用例が現れたテキストの題名とテキストファイル内の行数を括弧に入れて記す。コーパス全体の単語数は約 34,000、文字数は約 3,240,000 である。検索対象は、縮約なしの形式 *-a yot*-, *-y yot*-, *-b yot*-, *-ib yot*- と縮約あり⁵の形式 *-ayot*-, *-yot*⁶-, *-yap*-, *-byot*-, *-ibyot*- である。

V-a/-y yot-に付される形式と縮約形式 *-(a)yap* に注目して、表 3 に調査結果をまとめる。

⁵ コーパス上ではつづりからでしか縮約されているかどうか判断できないため、本稿では副動詞と *yot*- の間にスペースがない形式を「縮約あり」とする。

⁶ この形は、*V-y yot*- の縮約形式である。ウズベク語の固有語における音素配列では *y* が連続することはない。

表 3: *V-a/-y yot-*に付される形式と縮約形式一覧

	出現数
<i>-gan</i> [PTCP.PRF]	<u>118</u>
<i>-(a)yap</i> (< <i>-a=yot-ib</i>)	60
<i>-gan edi</i> [PTCP.PRF PAST]	<u>5</u>
<i>-sa</i> [COND]	2
<i>-(i)b</i> [CVB.SEQ]	2
<i>-gan ekan</i> [PTCP.PRF EVID]	<u>2</u>
<i>-ir</i> 非過去を表す古い形式 (Kononov 1960: 212)	2
<i>-(i)b</i> [PRS]	1
計	192

表 3 から、完了形動詞 *-gan* を含む形式 (125 例; 表 3 の下線部) と *-(a)yap*, *-(i)b* [PRS] (61 例; 表 3 の太字部) で全体の 96%以上を占めることが明らかになった。さらに、この調査では、1 例を除くすべての例で副動詞と *-yot* が分かち書きされないこと⁷、すべての例で語彙的な意味の残存がないことが明らかとなった。なお、2.2 節で挙げた本動詞 *yot-* の意味が読み取れる場合に語彙的な意味が残存していると判断する。

(13) と (14) に *-gan* の例を挙げる。(13) は連体修飾節の述語として用いられる例であり、(14) は完了形動詞 *-gan* のあとに証拠性小詞 *ekan* が続く例である。

- (13) *Dugona-lar-i-ga bosh+qosh bo‘l-a=yot-gan Sultonposhsha: ...*
 girl-PL-3.POSS-DAT head+eyebrow become-CVB.CNT=líe-PTCP.NPST PN
 「女子たちに、ボスとなりつつあるスルタンパッシャ (は次のように言った): …」
 (BeshQiz_va_BirYigit: 636)

- (14) *Ashur fermer traktor-i-da kul‘tivatsiya ish-lar-i-ni qil-ish*
 PN farmer tractor-3.POSS-LOC cultivation work-PL-3.POSS-ACC do-VN
uchun tayyorgarlik ko‘r-a=yot-gan ekan.
 for ready see-CVB.CNT=líe-PTCP.NPST EVID
 「アシュル農夫はトラクターで耕耘作業をするために準備していたようだ。」
 (BeshQiz_va_BirYigit 440)

⁷ 著者の知る限り、*V-a/-y yot-* は分かち書きされないという正書法上の規則はない。

(15) に-(*a*)*yap*、(16) に-(*i*)*b* [PRS] の例を挙げる。

(15) — *Hazillash-ayap=siz=mi?*

joke-PROG=2PL=Q

「冗談を言っているんですか？」(BeshQiz_va_BirYigit: 470)

(16) *U yer-da qachon-dan ishla=yot-ib=siz?*⁸

that place-LOC when-ABL work=lie-PRS=2PL

「あなたはそこでいつから働いているんですか？」(Redaktsiyada_suhbat: 28)

次に、*V-(i)b yot*-に付く形式に注目して、表 4 に調査結果をまとめる。

表 4: *V-(i)b yot*-に付される形式一覧

	出現数
-(<i>i</i>) <i>b</i> [PRS]	3
- <i>gan</i> [PTCP.PRF]	2
- <i>aver</i> [CNT]	1
- <i>a</i> [NPST]	1
- <i>di</i> [PAST]	1
計	8

この調査から明らかになったことを 4 点述べる: 1. 2.2 節の (10) に挙げたように、-(*i*)*b* [PRS] が比較的多く用いられていること、2. *V-(i)b yot*-が定形動詞 (-(*i*)*b* [PRS], -*aver* [CNT], -*a* [NPST], -*di* [PAST]) としても非定形動詞 (-*gan* [PTCP.PRF]) としても用いられること、3. 全ての例で副動詞が分かち書きされること、4. 語彙的意味が残っていない例 (17) も、残存しているように見える例 (18) もあること。(17) の *yot*-には 2.2 節で挙げた本動詞 *yot*-の語彙的な意味は残っていないと解釈できるが、(18) の *yastan-ib yot-gan* は「広がって位置を占める」という解釈も可能であり、したがって *yot*-の語彙的な意味が残っていると解釈できる。

⁸ 本来の形は *ishla-y yot-ib=siz* [work-CVB.CNT lie-PRS=2PL] である。

(17) 語彙的意味の残存なし :

Jurnal-ni chiqar-ib yot-ib=sizlar=mi?

journal-ACC publish-CVB.SEQ lie-PRS=2PL=Q

「あなたは雑誌を出版しているんですか？」 (Redaksiyada_suhbat: 64)

(18) 語彙的意味の残存あり :

Lola-ning ota-si ham ... yastan-ib yot-gan

PN-gen father-3.poss also spread-cvb.seq lie-ptcp.prf

poyon-siz cho'l-ga razm sol-di.

limit-PRIV dessert-dat look put-past

「ローラのお父さんも (中略) 広がっている果てしない荒野を見渡した。」

(BeshQiz_va_BirYigit: 2927)

4. 考察と結論

まず2節の表 2 にまとめた先行研究による記述と3節での調査結果をまとめ、そのあとに2.3節で導入した文法化の4つのパラメーターにしたがって、*V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* の差異を統一的に説明する。

表 5 に先行研究による記述と本稿での調査結果をまとめる。本稿での調査結果を太字にして示す。

表 5: 先行研究の記述と本稿での調査結果のまとめ

	意味	語彙的意味	形態的特徴	縮約
<i>V-a/-y yot-</i>	動作の進行 ただし、 <i>-yap</i> は現在継続	消失	<i>-gan</i> を含む形式、<i>-(a)yap</i> がほとんど 過去形・命令形 ×	ほぼ全て
<i>V-(i)b yot-</i>	動作の継続 状態の継続	残存も	<i>-(i)b</i> [PRS] が付くことが多い 定形も非定形も	なし

表 5 をもとに、文法化の4つのパラメーターを用いて両形式の文法化の程度を比較する。2.2節の(12)で挙げた文法化の4つのパラメーターを下記に再掲する。

(19) 文法化のパラメーター

a. extension 「拡張」

b. desemantization (or “semantic bleaching”) 「脱意味化 (あるいは「意味の漂白」)」

c. decategorialization 「脱範疇化」

d. erosion (“phonetic reduction”) 「音形縮約」

まず、a. extension 「拡張」と b. desemanticization (or “semantic bleaching”) 「脱意味化 (あるいは「意味の漂白」)」に注目する。*V-a/-y yot*-と *V-(i)b yot*-も新たな文法的な意味を獲得しているという面では拡張が起きていると言えるが、違いはないのだろうか。Heine and Kuteva (2007: 37) は、表 6 の拡張のモデルを提案し、文脈・文法化の結果生じた意味・推論のタイプという 3 つの観点から、拡張の段階を 4 つ (I から IV) に分類している。これら 3 つの観点は意味論的な観点であることから、この表は脱意味化にも関連していると言える。

表 6: 拡張のモデル

Stage	Context	Resulting meaning	Type of inference
I Initial stage	Unconstrained	Source meaning	—
II Bridging context	There is a new context triggering a new meaning	Target meaning foregrounded	Invited (cancellable)
III Switch context	There is a new context which is incompatible with the source meaning	Source meaning backgrounded	Usual (typically non-cancellable)
IV Conventionalization	The target meaning no longer needs to be supported by the context that gave rise to it; it may be used in new contexts	Target meaning only	—

(Heine and Kuteva 2007: 37)

上の表 6 をもとに、*V-a/-y yot*-と *V-(i)b yot*- を比較する。*V-a/-y yot*- は基本的にアスペクトを表し、どんな文脈でも現れ、もとの語彙的な意味 (表 6 では source meaning) も残っていない。したがって、*V-a/-y yot*- は IV の段階にあると言える。他方、*V-(i)b yot*- はアスペクトを表すが、(18) のように語彙的な意味が残存しているように見える例もある。したがって、*V-(i)b yot*- は II あるいは III の段階にあると言える。

次に、c. decategorialization 「脱範疇化」に注目する。Heine and Kuteva (2007: 40) によれば、一度ある言語的形式が語彙から文法形式へ脱意味化すると、それ以前の用法を特徴づける形態的・統語的な特性を失う傾向があるという。例えば、barring (< bar) 「～を除いて」、concerning (< concern) 「～に関して」、considering (< consider) 「～を考慮すると、～として

は」は、動詞から派生した後置詞であるが、時制・アスペクトを表さず、助動詞も取ることができないという点で、動詞の形態統語的特性を失っている (Heine and Kuteva 2007: 40)。*V-a/-y yot-*は、過去形 (8)・命令形 (9)・で使われず、コーパスにおいては *-(a)yotgan* (< *-a/-y=yot-gan* [-CVB.CNT=lie-PTCP.PRF]; (13)) と *-(a)yap* [PROG] (< *-a/-y=yot-ib* [-CVB.CNT=lie-PRS]; (15)) の例が大半を占めることから、*-yot* が持つ動詞の特性が失われていると言える。他方、*V-(i)b yot-*は定形動詞としても非定形動詞としても用いられることから、*-yot* が持つ動詞の特性は保たれていると言える⁹。

最後に、d. erosion (“phonetic reduction”) 「音形縮約」に注目する。*V-a/-y yot-*は、副動詞と *yot-*はほとんど分かち書きされず、*V-a/-y yot-*が縮約して接辞化している例 (*-(a)yotgan* と *-(a)yap* [PROG]) が大半をしめていることから、音形縮約が起こっていると言える。他方、*V-(i)b yot-*は分かち書きされる例も接辞化している例もない¹⁰。

以上、文法化の4つのパラメーターに沿って *V-a/-y yot-*と *V-(i)b yot-* を比較した。表 7 にその考察の結果をまとめる。

表 7: *V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* の文法化

	a. extension 拡張	b. desemantization 脱意味化	c. decategorialization 脱範疇化	d. erosion 音形縮約
<i>V-a/-y yot-</i>	度合い 高		度合い 高	あり
<i>V-(i)b yot-</i>	度合い 低		度合い 低	なし

本稿の調査と考察から、文法化の度合いで言えば、*V-a/-y yot-*のほうが高く、*V-(i)b yot-*のほうが高いということが明らかとなった。さらに言えば、本稿での調査から *V-a/-y yot-* は主節時現在を表す形動詞 *-(a)yotgan* あるいは現在継続時制を表す定動詞 *-yap* < *-a=yot-ib* としてパラダイムを成す形態素の一部として機能する例がほとんどであることが明らかとなった。

なぜこのような違いが起こるのかといえば、継続副動詞 *V-a/-y* を含む補助動詞構造は縮約あるいは接辞化が起こることがあるが、継起副動詞 *V-(i)b* を含む補助動詞構造は縮約・接辞化が起こらないことが原因として挙げられよう。例えば、可能を表す補助動詞構造

⁹ ただし、「*V-a/-y yot-*の *yot-*では動詞的特性が失われ、*V-(i)b yot-*では保たれている」という点については、さらなる検証が必要だと考えている。今後、母語話者と協働して、*V-a/-y yot-*と *V-(i)b yot-* に付きうる接辞を網羅的に調査しなければならないだろう。

¹⁰ 「音的縮約」に関しては、今回の調査では綴り上でのみの判断を行ったため、母語話者と協働して調査を行う必要があるだろう。例えば、副動詞と *yot-* の間にポーズが置かれるか、縮約形式が一語のアクセントパターンを保つかなどに注目すべきだろう。

-a/-y ol- [-CVB.CNT take] が *-(y)ol* [POT] のように (Ibrahim 1995: 193)、継続を表す補助動詞構造が *-a/-y ber-* [-CVB.CNT give] が *-aver/-yver* [CNT] のように (Ibrahim 1995: 194) 縮約される。また、非過去形動詞 *{-a/-y}digān* [PTCP.NPST] は *-a/-y tur-gān* [-CVB.CNT stand-PTCP.PRF] が起源であるという (Kononov 1960: 238)。さらに、継起副動詞 *V-(i)b* を含む補助動詞構造になぜ縮約・接辞化が起こらないかという点については、(4) に挙げたように、継起副動詞 *V-(i)b* が副詞節述語 (節連鎖) としても用いられ、常に後続要素と音的に切り離されて用いられることが挙げられよう。他方、継続副動詞 *V-a/-y* は、副詞節述語としてはほとんど用いられない。

5. 今後の課題

今回の調査に対する課題と、通時的観点と対照言語学的観点から今後の課題を述べる。

本稿では、コーパスを主体とした調査を行った。そのため、4 節の脚注 9 と 10 で述べたように、今後は脱範疇化と音形縮約の観点から、母語話者との調査が必要になる旨を述べた。脱範疇化では *yot-* に何が付きうるか、音形縮約では副動詞と *yot-* の間にポーズが置かれるか、縮約した形式が一語のアクセントパターンを保つかなどに注目して調査を行う必要がある。

次に、通時的観点から見た今後の課題について 2 点述べる。一点目は、脚注 2 でも述べたように、*yot-* の通時的な意味の拡張・発展については別途検証しなければならないことである。2.1 節では、「横たわる、横になる」から「存在する、とどまる」、さらにアスペクトの意味への発展を想定しているが、これは通時的に実証されていない。もう一点は、*V-a/-y yot-* が起源となっている形動詞 *-(a)yotgān* [PTCP.PRS] と定動詞 *-yap* [PROG] の通時的な発展過程についてである。今後は、古チュルク語、チャガタイ語などで書かれた文献から *yot-* あるいは *-(a)yotgān* と *-yap* の通時的な意味の拡張・発展を実証する必要がある。

対照言語学的観点からは、*V-a/-y yot-* と *V-(i)b yot-* の差異が愛媛県宇和島方言のアスペクト体系と並行的な関係にある可能性があることを指摘しておく。工藤 (1995: 261-300) は、「動詞連用形+ヨル」が進行性を表し (20a)、「動詞音便形+トル」が広い意味での結果状態を表す (20b) と指摘している。(20a) は、標準語の「歩いている」に相当し、他方、(20b) は、歩く動作そのものではなく、畑で野菜が倒れていたり靴跡が残っていたりしているのを見て、あるいは畑の土がついている子供の靴を見ての発話であるという。

(20) a. また、子供らが、畑の中、**歩きよる**。(進行性)

b. また、子供らが、畑の中、**歩いとる**。(広い意味での結果状態)

(20a) と (20b) は、(21a) と (21b) に部分的に対応しているように見える。*V-(i)b yot-* が

(20a) の「広い意味での結果状態」を表すかどうかは本稿の記述からは不明である。

(21) a. *V-a/-y yot-*は「動作の進行」を表す

b. *V-(i)b yot-*は「動作の継続」「状態の継続」を表す

(20) と (21) から、ウズベク語と愛媛県宇和島方言では動詞語幹の形式が異なる点は共通しているが、宇和島方言では動作的な意味と状態的な意味とで補助動詞に異なる形式（「ヨル」「トル」）が用いられることに注意されたい。今後は、同じような意味を表す補助動詞について、チュルク諸語間での対照を行いつつ¹¹、さらに語族の異なる言語間で対照することで通言語的な一般化を行うことができるかもしれない。

謝辞

本稿は、2022年2月19日に、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェイス—」2021年度第3回研究会にて「ウズベク語の *yot-*「横たわる」を用いた補助動詞における文法化」という題で発表した内容、および2022年3月5日に東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 第21回文法研究ワークショップ「言語記述と文法化をめぐる諸問題」にて「ウズベク語における *yot-*「横たわる」を用いた補助動詞構造の差異」という題で発表した内容を大幅に加筆修正したものである。上記研究会・ワークショップの参加者ならびにコメントを下された方々に感謝申し上げます。また、菱山湧人氏には修正前の本稿を読んでいただき、大変有益なコメントを多くいただくことができた。菱山氏に感謝申し上げます。ただし、本稿における誤りは全て筆者に帰するものである。

¹¹ 例えば、タタール語・バシキール語には、ウズベク語の *-a/-y yot-* に相当するものがないという（菱山湧人氏私信）。

略号一覧

-		接辞境界	INDF	indefinite	不定
+		接語境界	LOC	locative	処格
=		複合語境界	NPST	non-past	非過去
1	first person	1 人称	PAST	past	過去
2	second person	2 人称	PL	plural	複数
3	third person	3 人称	PN	personal name	人名
ABL	ablative	奪格	POSS	possessive	所有
ACC	accusative	対格	PRF	perfect	完了
CNT	continuative	継続	PRIV	privative	～なしの
COMP	comparative	比較	PROG	progressive	進行
COND	conditional	条件	PRS	present	現在
CVB	converb	副動詞	PTCP	participle	形動詞
DAT	dative	与格	Q	question	疑問
EVID	evidential	証拠性	RECP	reciprocal	相互態
FUT	future	未来	SEQ	sequential	継起
GEN	genitive	属格	VN	verbal noun	動名詞
IMP	imperative	命令			

参考文献

- Abdurahmonov, G'. A. va Sh. Sh. Shoabdurahmonov, A. P. Hojiyev (1975) *O'zbek tili grammatikasi I-tom Morfologiya*. [ウズベク語文法 第1巻 形態論] Toshkent: O'zbekiston SSR "Fan" nashriyoti.
- Begmatov, E., va A. Madavaliyev, N. Mahkamov, T. Mirzaev, N. To'xliiev, E. Umarov, D. Xudoyberganova, A. Hojiev. (2006) *O'zbek tilining izohli lug'at. ikkinch jild. E-M*. [ウズベク語詳解辞典 第2巻 E-M] Toshkent: "O'zbekiston milliy entsiklopediyasi" Davlat ilmiy nashriyoti.
- Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.
- Haspelmath, Martin (1995) The converb as a cross-linguistically valid category. Haspelmath, Martin and Ekkehard König (eds.) *Converbs in cross linguistic perspective*. 1-56. Berlin/New York: Mouton.
- Heine, Bernd and Tania Kuteva. (2007) *The Genesis of Grammar: A Reconstruction*. Oxford: OUP.

- Ibrahim, Ablahat. (1995) *Meaning and Usage of Compound Verbs in Modern Uighur and Uzbek*.
Doctoral dissertation, University of Washington.
- Johanson, Lars. (2003). Evidentiality in Turkic. Aikhenvald, A. Y. & R. M. W. Dixon (eds.) *Studies in Evidentiality*. 273–290. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Johanson, Lars. (2018). Turkic Indirectivity. Aikhenvald, A. Y. (ed.) *The Oxford Handbook of Evidentiality*. 509–524. Oxford:Oxford University Press.
- Kononov, Andrej N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo jazyka*. [現代標準ウズベク語文法] Moskva, Leningrad: Izdatel'stvo akademii nauk SSSR.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』東京: ひつじ書房.
- Straughn, Christopher. (2011) *Evidentiality in Uzbek and Kazakh*. Ph.D. dissertation, Northeastern Illinois University.

調査資料

- Beknazarov, O‘roz va Ismoil Yuldashev (2007) *Besh qiz va Bir yigit*. [5人の女の子と1人の青年] Toshkent: Cho‘lpon nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.
- Laude-Cirtautas, Ilse. (1980) *Chrestomathy of Modern Literary Uzbek*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Ozodlik radios* (<http://www.ozodlik.org>) [最終閲覧日: 2024/3/7]